

大岡山産のクモ

山本一幸

1. はじめに

大岡山の生物調査は園田学園のグリーンキャンパス構想の一環として「但馬むしの会」が依頼を受け、1984年度の年間行事の一つとして行われた。調査依頼は蝶や甲虫などの昆虫類が主であり、クモ類はその対象に挙げられていなかった。しかし大岡山全体を取りまく生物生態系を考える上でクモ類もそれなりのポストを持ち、何分にも筆者の研究対象がクモ類であるのであえてその調査の一部に加えてもらった。

調査を行った回数は6月28日と7月8日の2回と少なく、あまり成果が挙げられなかったが、とりあえず今年度の報告としてここにそのリストを発表する。

2. 調査地説明

標高652.6mの大岡山は、日高町の行政区に含まれ神鍋高原の一部として位置している。そのため観光地化による開発が見られ、山頂から北西部のゆるやかな斜面にはゴルフ場が作られ、芝地が広がっている。麓の山宮の集落からゴルフ場まで、幅5mあまりの舗装道路が山腹を通り、それにそって別荘地や造成地が点在している。一回目（6月28日）の調査では、道路ぞいの草地や造成地、クヌギやミズナラなどの落葉樹林内の下生え、林床などで採集を行った。（図1．A地点）

山頂から北東の斜面はやや急になり、奈佐川の支流の河江川によって刻み込まれた谷あいには河江や小河江、大岡などの小さな集落が見られる。二回目（7月8日）の調査は、この河江川の流域にそって河江の集落から延びる林道ぞい（図1．B地点）と、河江よりやや標高の高い位置にある大岡の集落（図1．C地点）の2箇所での採集を行った。

3. 採集物のリスト

リストに掲げた種は同定が明確になったもののみで、不明種や確信の持てないものについては今回は発表を控えた。

科の配列は八木沼（1977）に従った。ただし、近年になって新しく科として独立が認められたもの（新海、高野、1984）については、それを採用した。種の配列はアルファベット順に、学名、和名、採集日及び地点（略記号。A－6月28日、A地点；B－7月8日、B地点；C－7月8日、C地点）、採集個体数及び性別を記した。

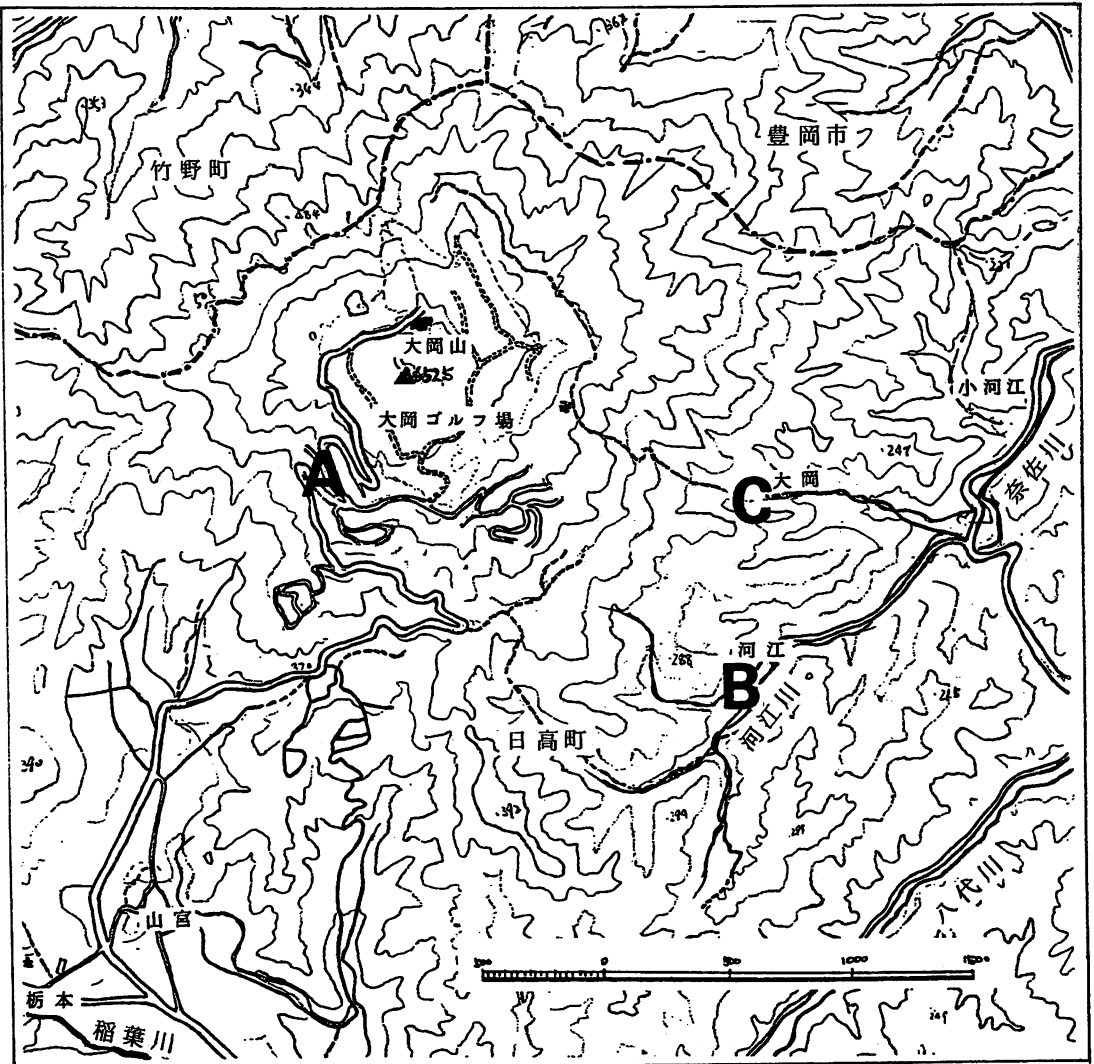


図1. 大岡山周辺図

目 録

1. Amaurobiidae ガケジグモ科

1. *Titanoeca nipponica* YAGINUMA, 1959 ヤマトガケジグモ A-8, 1

2. Uloboridae ウズグモ科

1. Uloborus varians BÖS. et STR., 1906 ウズグモ B-♀, 2

3. Pholcidae ユウレイグモ科

1. Pholcus crypticolens BÖS. et STR., 1906 ユウレイグモ B-♂, 1

4. Theridiidae ヒメグモ科

1. Achaeearanea angulithorax (BÖS. et STR., 1906) ツリガネヒメグモ A-♀, 1
C-♂, 1
2. Anelosimus crassipes (BÖS. et STR., 1906) アシブトヒメグモ B-♀, 1
3. Argyrodes saganns (BÖS. et STR., 1906) ヤリグモ A-♀, 1
4. Diplocephalus castrata BÖS. et STR., 1906 ボカシミジグモ A-♀, 1
5. Diplocephalus mustelina (SIMON, 1888) カニミジグモ A-♀, 1
6. Stemmops nipponicus YAGIUMA, 1969 スネグロオチバヒメグモ B-♀, 1
7. Theridion kompirense BÖS. et STR., 1906 コンビラヒメグモ C-♂, 1
8. T. rapulum YAGIUMA, 1960 ギボンヒメグモ B-♀, 1

ヒメグモ科の多くは草や低木の樹間を生息場所とするが、6のスネグロオチバヒメグモは例外的に林床の落葉の下で多く見つかる。杉の植林地に堆積した枯枝の間で見つかった。

5. Nesticidae ホラヒメグモ科

1. Nesticus brevipes YAGIUMA, 1970 コホラヒメグモ B-♀, 3

6. Linyphiidae サラグモ科

1. Erigone koshiensis Ol, 1960 カワリノコギリグモ B-♂, 1
2. E. nigriterminorum Ol, 1960 ハシグロナンキングモ A-♂, 1 B-♀, 1
3. E. torquialpis Ol, 1960 マダラナンキングモ B-♂, 2
4. Mithoplastoids naraensis Ol, 1960 ナラヌカグモ A-♀, 1
5. Neolinyphia angulifera (SCHENKEL, 1953) ハンモックサラグモ A-♂, 1.
♀, 1
6. N. nigripectoris Ol, 1960 ムナグロサラグモ B-♀, 1
7. Strandella quadrimaculata (UYEMURA, 1937) ヨツボンサラグモ A-♀, 3

13. Hahnidae ハタケグモ科

1. *Hahnia corticicola* BÖS. et STR., 1906 ハタケグモ A-♀, 2
2. *Neoantistea quelpartensis* PAIK, 1958 ヤマハタケグモ B-♂, 1

2のヤマハタケグモは未成熟個体であり、触肢が未発達のため同定の決め手に欠けた。しかし、腹部の胸部との付け根に生える、ヤマハタケグモ独特のササの葉状の毛が認められたので、本種と同定した。採集報告としては但馬で初めてである。

14. Pisauridae キシダグモ科

1. *Dolomedes rector* BÖS. et STR., 1906 アオグロハシリグモ B-♀, 1
2. *Pisaura lama* BÖS. et STR., 1906 アズマキシダグモ A-♀, 1

15. Lycosidae コモリグモ科

1. *Pardosa astrigera* L. KOCH, 1878 ウズキコモリグモ C-♀, 1
2. *P. laura* KARSCH, 1879 ハリゲコモリグモ A-♀, 2
3. *Pirata clercki* (BÖS. et STR., 1906) クラークコモリグモ B-♂, 4. ♀, 4
4. *P. subpiraticus* (BÖS. et STR., 1906) キバラコモリグモ B-♀, 3

3と4のクモは、谷川の近くに積まれた枯枝の中に混じって多数生息しており、いずれもこの時期、卵のうを持っていた。2種の相互関係に生態学的な興味を持った。

16. Thomisidae カニグモ科

1. *Oxytate striatipes* L. KOCH, 1878 ワカバグモ A-♀, 2
2. *Misumenops tricuspidatus* (FABRICIUS, 1775) ハナグモ B-♀, 1
3. *M. japonicus* (BÖS. et STR., 1906) コハナグモ B-♀, 1

3のコハナグモが、フクログモ科(Clubionidae)の一部に見られるような、イネ科植物の葉を丸めた産室を作り、内部に卵のうと共に居るのを確認した(図2)。

17. Philodromidae エビグモ科

1. *Philodromus subaureolus* BÖS. et STR., 1906 アサヒエビグモ A-♀, 1. ♂, 1

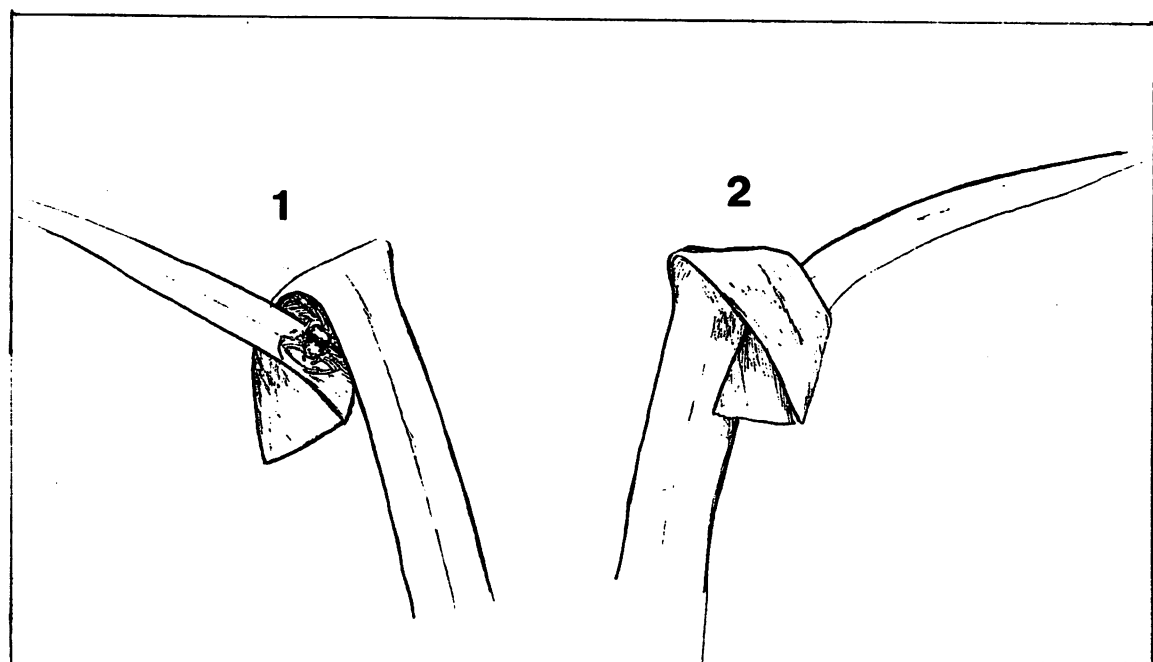


図2. コハナグモの産室 (1. 表側, 2. 裏側)

18. Salticidae

ハエトリグモ科

1. *Euopophrys frontalis* (WALCK., 1802) カタオカハエトリ A-♂, 1
(Figs. 5~6)
2. *Evarcha albaria* (L. KOCHA., 1878) マミジロハエトリ B-♂, 1 C-♀, 2
3. *Harmochirus brachiatus* (THORELL, 1877) ウデブトハエトリ B-♂, 1
4. *Icius linea* (KARSCH, 1879) メガネアサヒハエトリ B-♀, 1
5. *I. difficilis* BÖS. et STR., 1906 マガネアサヒハエトリ A-♂, 1. ♀, 1
B-♂, 1 (Figs. 7~8)
6. *Myrmarachne innermichelis* BÖS. et STR., 1906 ヤサアリグモ B-♀, 1
C-♂, 1. ♀, 2
7. *M. japonica* (KARSCH, 1879) アリグモ A-♀, 1
8. *Silerella vittata* (1879) (KARSCH, 1879) アオオビハエトリ C-♂, 2. ♀, 1

9. *Sitticus penicillatus* (SIMON, 1875) シラホシコゲチャハエトリ A-♂, 1
(Figs. 9~10)
10. *Telamonia difiurcilinea* BÖS. et STR., 1906 キアシハエトリ C-♀, 2
(Figs. 11~12)

1のカタオカハエトリは体長3mmの小型のクモで、1脚が太く、腿節の下面に橙褐色の太短い毛が生え、脛節には黒色の羽状の長い毛が生える。日本での分布は千葉県、福島県岩手県、宮城県などの東日本が主で、西日本での記録は今回が初めてだと思われる。片岡(1977)によれば笹藪や灌木の下部、落葉の中に多いとのことであるが、採集した時は造成地の小石の上を徘徊していた。

- | | | |
|---|---------|--------|
| 19. Clubionidae | フクログモ科 | |
| 1. <i>Phrurolithus nipponicus</i> KISHIDA, 1914 | ウラシマグモ | A-♂, 1 |
| 20. Ctenidae | シボグモ科 | |
| 1. <i>Anahita fauna</i> KARSH, 1879 | シボグモ | A-♀, 1 |
| 21. Gnaphosidae | ワシグモ科 | |
| 1. <i>Drassodes striatus</i> (KISHIDA, 1932) | トラフワシグモ | A-♀, 1 |

以上、21科59種を報告する

その他にクモ以外として、キボシカミキリ(B)、クワササラゾウムシ(C)、ヒメヒラタタマムシ(C)を採集した。

4. あとがき

調査回数が少なく、しかも初夏の一時期だけだったので、秋に多く成体の出現する林床のクモなどはほとんど採集できなかった。今回報告した59種のクモは、数種を除いて但馬地方に一般的に広く分布するクモであり、この記録だけでは大岡山のクモ相について詳しくは言えない。

大岡山は、山頂付近のゴルフ場のような人工的な環境変化が広範囲に見られ、但馬地方の山地に広がりつつある植林による環境変化とは違った、別の意味での自然破壊を考える上で注目したい場所である。「但馬むしの会」の方針としても引き続き調査を行なう計画であり、今後多くのデータの集積によって、スキー場やゴルフ場などの観光開発による草

原化が、但馬の自然にどのような影響を与えるのか考えてみる必要がある。

5. 参考文献

有田立身, 1978. Two species of the Family Hahniidae (Arachnida, Araneae) from Japan. *Anno. Zool. Japan*, Vol.51, No.4; 240 ~ 244.

片岡佐太郎, 1977. ミチノクフクログモとカタオカハエトリについて.

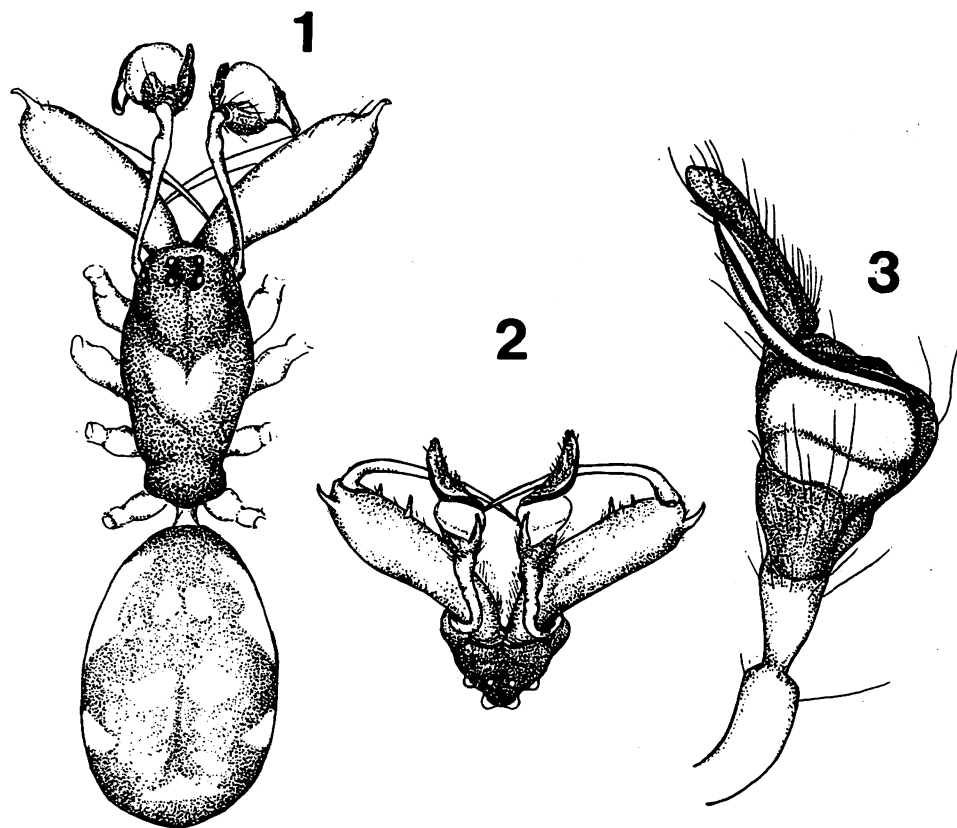
Acta Arachnol., Vol.27, Sp.No.; 311~313.

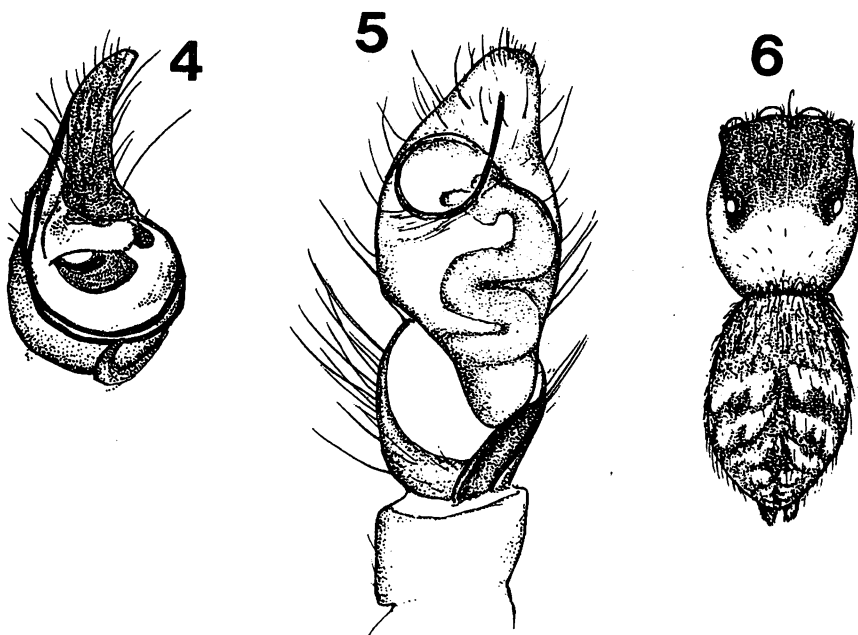
新海栄一・高野伸二, 1984. フィールド図鑑・クモ. PP.204. 東海大学出版会, 東京.

松本誠治, 1976. ハエトリグモの分類(Ⅱ) - 日本産ハエトリグモ7種について -.

Kisidaia, No.40; 33~40.

八木沼健夫, 1977. 日本産真正クモ類目録(1977年・改訂). *Acta Arachnol.*, Vol.27, Sp.No.; 367~406.





Figs. 1-4. *Dyschiriognatha tanara* (Male)

1.Body, upside. 2.Face. 3.Palpus, side. 4.Palpus, front.

Figs. 5-6. *Europophrys frontalis* (Male)

5.Palpus, ventral view. 6.Body, upside.

Figs. 7-8 *Jotus difficilis* (Male)

7.Body, upside. 8.Palpus, ventral view.

Figs. 9-10. *Sitticus penicillatus* (Male) .

9.Body, upside. 10.Palpus, ventral view.

Figs. 11-12. *Telamonia difiurcilinea* (Female) .

11.Body, upside. 12.Epigynum.